

FOMCを受けての日米株式・リート市場

FOMCの結果は最近の堅調相場を妨げず

2023年7月27日

次回FOMCに向けて「データ」の見極めが続く

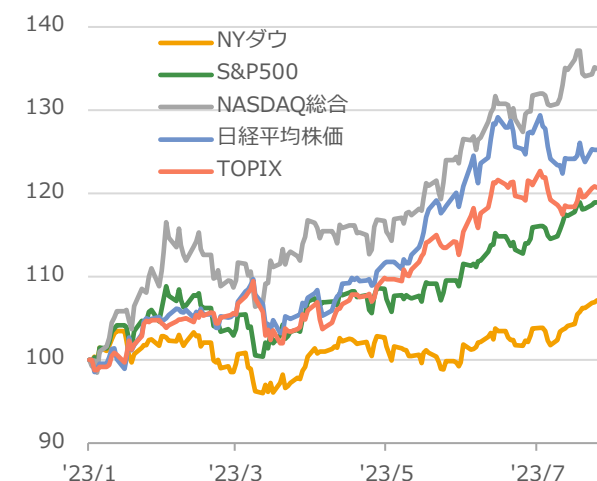
FRB（米国連邦準備制度理事会）は7月25-26日（現地）に開催したFOMC（米国連邦公開市場委員会）で、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを5.25～5.50%へ0.25%ポイント引き上げました。利上げは5月以来、2会合ぶりですが、市場予想通りの結果でした。

26日の米国株式市場は、主要指数が高安まちまちでした。FOMC後のパウエルFRB議長の記者会見時に、市況が多少上下に振れる局面もありましたが、全体的にはおおむね落ち着いた値動きでした。少なくとも声明文や記者会見には、足元の堅調地合に水を差すような内容はなかったと思われます。今後の利上げの有無は「データ次第」との姿勢を継続しているため、次回FOMC（9月19-20日）に向けても景気指標などを確認しながらの相場展開が想定されます。こうした状況を踏まえると、日本株もスピード調整の可能性を除けば、当面の下振れリスクは小さいと考えられます。

26日の米国リートは堅調でした。2週間ほど前に発表された6月分の米消費者物価指数などをきっかけにインフレ鈍化観測が強まり、金利先高感が後退していることが米国リートの支援材料になっているとみられます。インフレ鈍化の確度は高まっていると考えられるため、投資環境は今後徐々に改善していくと想定しています。日本のリートについては、日銀による金融政策修正の思惑に神経質な展開が続いています。国債との利回り差や堅調な株式市場が引き続き評価されやすい局面と考えています。

日米主要株価指数

（2023年1月初～2023年7月26日）

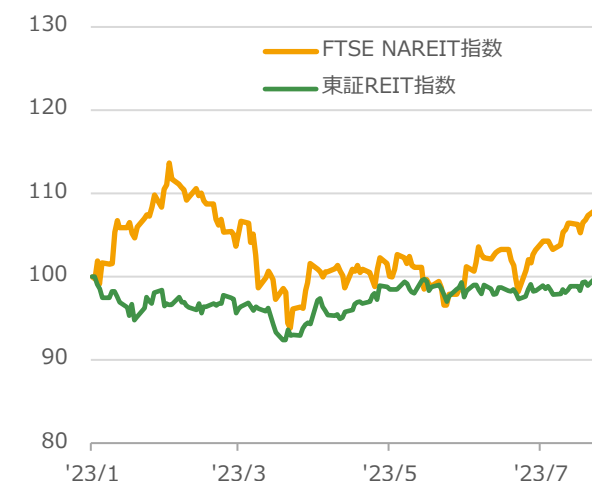


※起点を100として指数化

（出所）ブルームバーグ

日米リート指数

（2023年1月初～2023年7月26日）



※起点を100として指数化

（出所）ブルームバーグ

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management